

「豊かな人間性を育み、生徒一人ひとりの個性の伸長を図るキャリア教育はどうあればよいか」

岩手県立水沢農業高等学校 千葉 章 浩

1 研究のねらい

学校教育においてキャリア教育を展開するようになってきた。「キャリア教育」とは「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通じて、キャリア発達を促す教育」（文部科学省 中央教育審議会 キャリア教育・職業教育特別部会より）と定義されている。

今回は視点4 農業教育の活性化につながる学校農業クラブ活動指導の工夫と実践を中心にキャリア教育について考察する。

2 研究・指導の方法

農業クラブ活動における外部交流活動を中心に考察する。

農業体験の外部交流について、生徒のアンケート、指導者の意見及び交流先の意見を中心にまとめる。

3. 指導展開

本校が農業クラブ活動のひとつとして実施している農業体験交流について検証する。今回取り上げる内容は以下のとおり。

（1）本校に来校して行う農業体験

①遠足または校外学習

②みんなdeスクラム

（県南青少年の家主催の障がいを持つ子ども達とその家族との農業交流）

（2）本校が外部に訪問して行う農業体験（出前授業）

①野菜専門分会におけるミニトマトの定植

②草花専門分会における花壇プランター作り

（1）本校に来校して行う農業体験

①遠足または校外学習

②みんなdeスクラム

ア. 遠足・校外学習の受け入れ条件

- ・原則としてプログラム中に農業体験を実施する。
- ・農業科目で対応しているが、時間が合わない場合は職員のみに対応。
- ・職員における下見及び打合せに来ていただく。

イ. 体験のメニュー

（ア）野菜

- ・苗の定植
- ・収穫及び試食（今年度はキュウリ、ミニトマト）
- ・野菜の観察

（イ）草花

- ・寄せ植え



(ウ) 果樹

- ・収穫及び試食（リンゴ）

(エ) 畜産・馬学

- ・動物の観察、エサやり
- ・乗馬（小規模校のみ）

(オ) その他

- ・トラクターバスによる校内見学

ウ. 今年度の実績（みんな de スクラムを含む）

	日付	来校名	学年	児童	引率	備考
1	4月28日	奥州市立常盤小学校	2年	117	6	
2	5月6日	奥州市立白鳥小学校	1・2年	13	2	
3	5月9日	奥州市立南都田幼稚園	5歳児	21	3	
4	5月31日	奥州市立真城小学校	2年	47	2	
5	6月1日	奥州市立胆沢愛宕小学校	1・2年	19	2	
6	6月3日	金ヶ崎町立金ヶ崎小学校	1年	70	1	
7	6月11日	みんな de スクラム		21	12	
8	6月16日	奥州市立若柳小学校	1・2年	48	2	
9	9月5日	若柳幼稚園		21	4	
10	9月8日	南都田幼稚園		30	4	
11	9月15日	奥州市立水沢小学校	1年	103	6	
12	9月18日	みんな de スクラム		9	6	
13	9月20日	奥州市立水沢南小学校	1年	雨天により中止		
14	9月26日	南都田幼稚園	4歳3歳	39	6	
15	10月3日	奥州市立藤里小学校	1年	7	1	
16	10月11日	胆沢保育園	4歳5歳	26	4	
17	10月12日	駒形保育園	0～3歳	60	2	
18	10月17日	東水沢保育園	5歳	15	2	
19	10月18日	第2東水沢保育園	5歳	48	4	親子遠足
20	11月10日	奥州市立人首小学校	1・2年	17	3	
合計				731	72	
総計				803		

エ. 指導した職員のコメント

生徒が経験するにつれ対応能力が向上する。また、受け身だった生徒が「リードする立場」と「責任」を持つために、主体的に考え意見を出して改善するようになってきた。また、挨拶や言葉遣い、わかりやすい説明を意識するようになってきた。

みんな de スクラムでは障がいを持った子ども達と接することにより、より配慮する意識が芽生えてきた。この事業はリピーターの参加者が多く参加者が顔見知りとなり成長する過程が見られるので、生徒も家族と共に喜び「自分なら何ができるか」を考えるようになった。

(2) 本校が外部に訪問して行う農業体験（出前授業）

①野菜専門分会（3年生）におけるミニトマトの定植

ア. 実施内容

- ・実施日 平成23年5月31日
 - ・対象校、対象児童 奥州市立常盤小学校2年生（生活科の授業）
 - ・対応者 野菜担当教諭 実習教諭 農業科学科 3年生徒8名
- 1年生の時に花栽培で使用したポットに本校で生産したミニトマトを定植する。

イ. 生徒の感想

- ・子どもの人数が多く上手く教えられたか不安。
- ・もっと準備をしておけば良かった。
- ・コミュニケーションをとるのが難しかった。今度はもっと積極的に話しかけようと思った。
- ・他のクラスのペースに合わせなければならぬが、自分の対応した子どものペースもあるので難しい。
- ・説明をしているのに邪魔をする子どもがいたので大変だった。



ウ. 指導教官からの感想

普段人見知りするような生徒が、徐々に慣れてきて最後には積極的に話している姿があった。実習で学んだことを、生徒達は再度確認できたようであった。



エ. 小学校の教員からの意見

- ・栽培管理の仕方など生徒達に（教員が）知らないことを教えてもらえた。
- ・子ども達が生き生きしていた。
- ・ていねいな対応をしていただいた。

②草花専門分会における花壇プランター作り

ア. 実施内容

(ア) 奥州市立若柳小学校における花壇作り

- ・実施日 平成23年 6月 3日 打合せ
- 6月21日 準備（テキスト作り）
- 6月22日 交流（花壇作り）
- 8月 1日 管理
- 11月18日 見学

- ・対象校、対象児童 奥州市立若柳小学校 3年生
- ・対応者 草花担当教諭 実習教諭 農業科学科 2・3年 生徒 6名
学校の花壇作りを指導する。

(イ) 奥州市立胆沢愛宕小学校におけるプランター作り

- ・実施日 平成23年 6月 3日 準備 (テキスト作り)
- 6月 17日 交流 (プランター作り)
- 8月 3日 管理
- 11月 18日 見学
- ・対象校、対象児童 奥州市立胆沢愛宕小学校 3年生
- ・対応者 草花担当教諭 実習教諭 農業科学科 2・3年 生徒 6名

学校の玄関前に飾るプランター作りを指導する。このプログラムは昨年より継続して行っている。(参加している小学生は昨年に引き続き2年目である)



イ. 生徒の感想

- ・難しい。
- ・もっと準備をしておけば良かった。
- ・小学生には、上手く指示が伝わらない。説明の難しさがわかった。

ウ. 指導教官からの感想

学校外での活動が楽しく感じているようであった。実習で経験したことを再度指導することによって習熟したように感じる。また、「深く植える」と指示しても子どもによって深さが違うことを知り、具体的な数字が必要と感じたようである。継続して実施できた学校では、生徒も小学生も成長したことを感じられた。

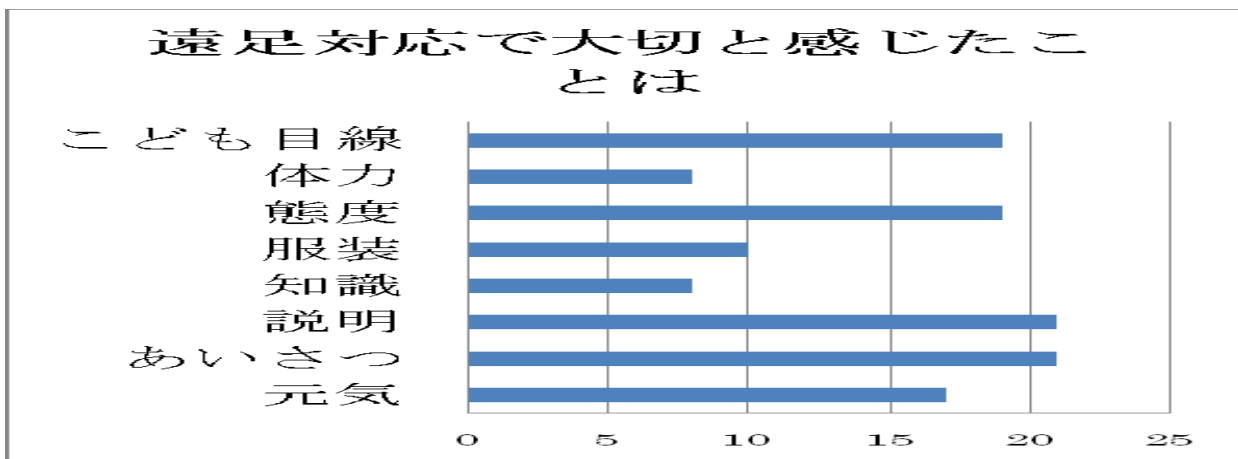
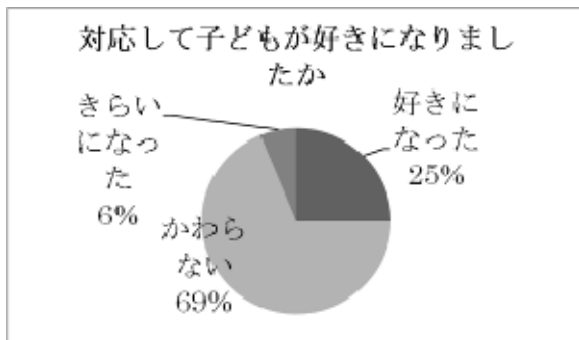
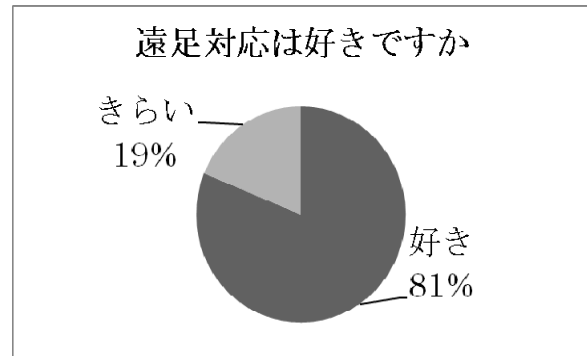
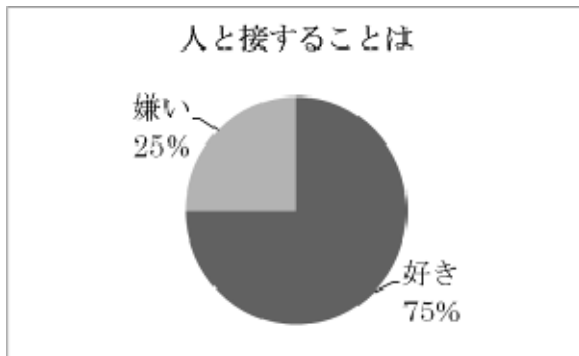


エ. 小学校の教員からの意見

- ・花壇やプランターで装飾でききれいになりありがとうございました。
- ・ていねいにわかりやすい指導でした。

4. 分析

(1) 対応した生徒にアンケートを実施した。



人と接することが好きな生徒は、子どもが好きであり遠足や出前授業も概ね積極的に取り組む傾向がある。

特に生徒が対応で気をつけたことを自由記述で回答してもらった（丸数字は回答数）。

わかりやすく説明する⑩

安全面に気を付ける⑩、

言葉遣い、全体を見る 各⑨、

笑顔⑧、

たくさんほめる③、

子どもに合わせて歩く（実習をする）、すべての子ども達に平等に対応 各②、

できない子どもを手伝う 声を大きく、けんかさせない各①、 など。

5. まとめ

(1) 効果

①生徒

- ・生徒が責任感（プロ意識）を持てる。また向上する。
→社会人としてのマナーや必要なことを自ら気付きやすい。
- ・生徒が自信を持てる。
- ・学習内容が反復するので知識向上になる。

②学校及び職員

- ・学校の宣伝となる。水農への興味が高まる。
- ・農業教育への理解が深まる。
- ・生徒の成長した面や課題となっている面がわかる。

(2) 課題

①費用面

- ・受益者負担を原則としている。参加者の個人負担となるので経費価格を上げにくい。

②対応生徒への指導

- ・社会人としての礼儀・態度等。
- ・生徒の実習面に対応できるレベルの育成。
- ・対応する生徒のクラス、専門分会が偏る。

③対応職員・学校

- ・集中するので日程の調整が難しい。また、シラバスへの影響がある。
- ・対応職員が偏ってしまう。準備に係る業務が増加する。
- ・全学科、全生徒での対応となっていない。

④参加者

- ・小学校、幼稚・保育園の参加が主である。→中学校の参加

キャリア教育は、社会（＝企業等）での実践で育成されるものというイメージがある。一方、学校内で責任を持ち、積極的な対応をしなければならない環境を作ることによっても社会性が育成されることを感じている。これらの対応をきっかけにして将来は幼稚園教諭や保育士を目指す生徒もでてきている。

今の子ども達には責任を持たせる場が少ない中、このようなプログラムは有効であると考える。

今後さらにキャリア教育は推進されるが、インターンシップや社会人講師等の社会での学習だけでなく、学校内でもキャリア教育できる活動が多々あるのではないかと感じる。

多様な生徒に対応するためにも様々な機会を設け、本人の興味にあった進路選択ができ、卒業後の進路先で困らないレベル、マナー、態度を育成できるように今後も努力していきたい。